

環境月間にあたり

国際ロータリー第 2590 地区ガバナー 長戸 はるみ



「あはれ花びらながれ をみなごに花びらながれ をみなごしめやかに語らひあゆみ…」、私の大好きな詩の冒頭です。三好達治ですね。

国内各地から日々桜の便りが届き、春の入口をようやく迎えた心地です。近年、横浜・川崎では開花が早まっているようで、3月半ばには咲き始めることもあります。いつしか入学式を待つよりも早く、卒業式の頃には満開を迎えることも珍しくなくなりました。風に花びらが舞い散る中、学び舎を巣立って行く…確かに絵になるシーンではありますが、これも地球温暖化の影響だとしたら素直に喜べませんね。

春は動植物が長い冬の眠りからから目覚める季節です。木立の枝葉の中を飛び交う小さなメジロの子は今年になって卵からかえったばかりなのでしょう。和菓子のような鶯色の躍動にしばし見とれます。花鳥風月、自然界の息吹に私たちは潤いを覚え、リフレッシュさせてもらえます。

異国で過ごした経験と比べても、日本では身近な自然と接して楽しむ機会に恵まれていることを実感いたします。日々意識して動植物を守ろうとすることは私たちの住環境を守ることであり、自然災害から人命を守ることはもちろん、一人ひとりの人権を守るための活動にも繋げていくための基礎とすることができます。

手元に横浜市資源循環局発行の資料があります。2年ほど前に頂いたものですが、私たちの生活環境を守るため取り組むべき分野が二つあげられています。一つはフードロスの問題、可燃ゴミとして処分される未使用の食品の多さです。それに家庭で調理されて廃棄された食べ物を加えたらどれ程の量になるのでしょうか？ 資料には、生まれたばかりの赤ちゃんを含む横浜の全市民が、毎日お茶碗いっぱい山盛りごはんを棄てているのに匹敵すると報告されていました。もう一つはマイクロプラスチックによる深刻な海洋汚染の問題です。皆様もウミガメや海鳥の体内から取り出されたレジ袋の写真などをご覧になったことがあることと思いますが、更にもっともっと微細なプラスチック製の粒子が海水に流れ込み、それに汚染された海産物が私たちの食卓にも脅威を与えうる現実です。

私たちのクラブでは何ができるのでしょうか？ 各クラブにおかれては専門家や識者の考えを伺う卓話を増やすこと、ローターアクトやインターアクトの若い世代と危機感や対策案を共有していくことの必要を切実に感じています。絶やすことなくそうした思いを次世代に伝え、活動を持続させて行く地域の原動力として、私たちのロータリークラブ組織を活用して行くことができれば！ ガバナー就任以前からの私の願いです。

さて、2月26日に当地区主催で、東日本大震災で親を亡くした遺児たちの、大学、短大、専門学校への進学を支援する「ロータリー希望の風奨学金」に対するチャリティーコンサートを、はまぎんホールで開催いたしました。会員の皆様にはチケット購入でご協力いただきました。第一部は米山学友による電子オルガンと映像・バレエとのコラボレーション、第二部はロータリー財団学友によるピアノとフルートと歌（オペラ）の共演でした。すべてのプログラムが素晴らしく賞賛の拍手を頂きました。大勢の皆様がご来場くださり感謝申し上げます。

